

第12回「日本語大賞」

テーマ「心にひびいた言葉」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「努力すること」

東京都
九段中等教育学校
二年 安藤 ころこ

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「努力すれば報われる？ そうじゃないだろう。報われるまで努力するんだ。」

サッカー選手、リオネル・メッシの言葉が私の心にひびいた。私が一番悩んでいた時、この言葉が私を救ってくれた。

私には陸上競技部で同じ種目をやっている親友がいる。入部した時から気が合い、とても仲が良い。辛い練習も一緒に乗り越えてきた。おまけに学校のテストなどの成績も同じだ。

しかし一年生の後半から私は段々置いていかれ始めた。同じ練習メニューをこなし、練習では彼女についていけるのに、大会では差がつき、彼女についていけないことが続いた。はじめは一、二秒だったタイムの差も段々開いた。悔しくて自主練習をしたが、タイムの差は縮むどころか、益々開いてしまった。私の焦りも日に日に大きくなっていった。

二年生の初めての大会では同じレースに彼女がいると、差がもつと開いたらと考えてしまい、息が苦しくなった。そして走る事も怖くなった。

彼女のタイムは段々速くなり、遂に二人の目標だった都大会出場を彼女だけが勝ちとったのだ。すごいね、そんな一言が出ない。私は大好きな親友の都大会出場を素直に喜ぶことが出来なかった。親友に勝てない自分も、素直に喜んであげられない自分もとても嫌になった。

「どうして私は報われないのだろう。彼女より練習に出ているし、自主練習だって頑張っているのに……。」

と私は嘆いた。気を紛らわそうと家で携帯を見ているとそこにはリオネル・メッシの言葉があった。

「努力すれば報われる？ そうじゃないだろう。報われるまで努力するんだ。」

その一言に胸をゆっくり強く押し込まれるような強い衝撃を受けた。私には今までにない経験だった。ずっと一流のサッカー選手を目指し、努力してきた彼の言葉は私の心を強くゆさぶった。自分で勝手に努力していると思ひ込み、報われないと嘆いていた自分が恥ずかしくなり、情けなくもなった。自分の胸に手をあてて

「努力したと言っているが、例えば何をした？」

と聞いてもはつきり答えることが出来ない。毎日ランニングをすると決めても結局宿題や課題を理由にして、やらなかった日も何日かあった。メッシだって努力をして今の結果がある。親友だって同じことだ。そんな簡単なことさえ分からなくなっていた自分自身にとてもがっかりした。

私は小学生の時、サッカーのクラブに入っていた。その時コーチから、メッシは子供のころから家族のすべてを背負ってサッカー選手として生きていく覚悟を決めたという話を聞いたことがある。だからメッシは報われるまで努力するしかなかったのではないか。私は覚悟を決めて練習できていたのだろうか。メッシの言葉は私に足りていないものを考えさせてくれた。私は今も親友の記録に追いつくことが出来ない。だからこそ私はもう報われないなんて人のせいにするようなことを言っている場合ではない。報われるまで努力する。そして必ず彼女を抜かす。これからの人生の中でもまたつまずくことがあるかもしれない。そんな時はメッシの言葉を思い出して前へ進んでいきたい。

「努力すれば報われる？ そうじゃないだろう。報われるまで努力するんだ。」

私はこの言葉を信じる。